

BIM/CIM 活用工事における BIM/CIM モデルを活用した検討内容の記載例

BIM/CIM 活用工事における BIM/CIM 活用項目の選定にあたり、下記のとおり記載例を示す。特記仕様書においては、事業特性に応じて適宜編集の上、各項目の 1)～6) を記載する。

選定した項目の目的を達成するために必要となる BIM/CIM モデルの詳細度及び属性情報の詳細について、入札公告時に明示できない場合は、契約後、受発注者による協議の上で決定することとして良い。なお、工事の効率を過度に落とすことがないように、BIM/CIM モデルを作り込み過ぎないように注意する。

【】は補足事項であり、入札公告時には削除する。

<BIM/CIM 活用工事>

a) BIM/CIM を活用した監督・検査の効率化

1) 実施目的

設計段階で作成した BIM/CIM モデル等を活用しながら、監督・検査の効率化を図ることを目的とする。【事業の特性に応じて記載する】

2) 実施内容

受注者は、監督・検査の提案を実施することとし、実施にあたっては発注者との協議による。当該提案にあたっては、設計段階で作成した BIM/CIM モデルを活用した出来形・品質等の検査、ウェアラブルカメラや VR・AR 等の ICT 機器を活用した協議等の監督・検査に係る事項について、従来の監督・検査要領（「ICTの全面的活用」を実施する上での技術基準類を含む。）の範囲内における提案とすることに留意する。【事業の特性に応じて記載する】

äBIM/CIM モデル

実施内容に応じて設定する。

4) BIM/CIM モデルの詳細度（想定）

実施内容に応じて設定する。

5) BIM/CIM モデルに付与する属性情報（想定）

実施内容に応じて設定する。

6) 主に参照する基準・要領等

BIM/CIM 活用ガイドライン（案）

7) 【参考】適用が見込まれる場合

当該項目の実施により業務効率化が見込まれる場合に適用が見込まれる。

b) BIM/CIM を活用した変更協議等の効率化

1) 実施目的

変更協議に係る内容を BIM/CIM モデルに関連付けておき、関係者間で適切に共有することにより、変更協議の省力化につなげることを目的とする。【事業の特性に応じて記載する】

2) 実施内容

BIM/CIM モデルに変更協議に係る日時、箇所、内容等の情報を検索しやすいように関連付ける。対象箇所を検索しやすいよう、色分け、吹き出し等を工夫すること。BIM/CIM モデルは必ずしも精緻な

形状にする必要はなく、詳細度を 200～300 として問題ないが、外郭形状等に変更があった場合は逐一更新すること。【事業の特性に応じて記載する】

3) 作成する BIM/CIM モデル

土工形状モデル、構造物モデル【事業の特性に応じて記載する】

4) BIM/CIM モデルの詳細度（想定）

工事目的物の外形が分かる程度の詳細度とし、概ね 200 程度とする。外形に変更があった場合、逐一更新する。【事業の特性に応じて記載する】

5) BIM/CIM モデルに付与する属性情報（想定）

該当箇所に変更協議に係る日時、箇所、内容等の情報を検索しやすいように関連付ける。【事業の特性に応じて記載する】

6) 主に参照する基準・要領等

BIM/CIM 活用ガイドライン（案）

7) 【参考】適用が見込まれる場合

変更箇所が多い等により、変更協議に多くの時間を要することが見込まれる場合

c) リスクに関するシミュレーション（地質、騒音、浸水等）

BIM/CIM 活用業務 b) の項目を参照。

d) 対外説明（関係者協議、住民説明、広報等）

BIM/CIM 活用業務 c) の項目を参照。

以上